

平和への祈り「グルーの桜」

校長 黒田 泰正

学校だより「麻布だより7月号」では、麻布小学校の自然を大切にしていきたいことを述べましたが、そのことと関連して、もう一つ大切にしていきたい桜の木があります。

今から6年前の平成22年10月19日に「グルーの桜」として植樹された桜です。校庭の幼稚園側の砂場の近くに柵で囲われている桜の木で、説明板があります。説明には、次のように書かれています。

グルーの桜

開校135周年記念樹

由来記

昭和17年、当時の駐日米国大使 故ジョセフ・グルー氏が、戦争のために米国に帰国するに際し、日米間の平和を願って大使館公邸の庭園に一本の桜を植えた。植樹に際し故グルー氏は、「桜が咲く頃、時計の振り子が戻るように、平和がよみがえる」と語ったという。

その「グルーの桜」は、戦後に一度枝分けされ、現在も大使館公邸に花を咲かせている。

そこからさらに取り木した「三世」のこの桜は、故グルー大使の平和への願いと日米親善の思いを伝えている

この「グルーの桜」の由来を母校に伝えようとした一人の本校卒業生の発意を受けた、ジョン・ルース駐日米国大使の好意により、このたび麻布小学校に寄贈された。

本年は学校創立135周年にあたり、同窓会記念事業の一環としてルース氏の臨席のもとに植樹したものである。

平成22年10月19日

寄贈 在日米国大使館
協力 港区立麻布小学校同窓会

当時の校長先生でいらした、鈴木義治先生からたくさんの資料や NHK で放送された DVD を送っていただき詳しいことがわかりました。1942年6月にグルー夫妻は、大使付きの日本人に公邸に桜(種類はカンザン)を植えたいと相談し、実現したそうです。しかし、その半年前には日本軍による真珠湾攻撃で日米両国は交戦状態に入り、グルー夫妻は上記のような言葉を残して、帰国したそうです。その後駐日大使ライシャワー氏が取り木をして「二世」が生まれ、麻布小学校の木は「三世」として、植樹していただくことになりました。植樹式典には、当時の駐日米国大使ジョン・ルース大使も出席し、ご挨拶の中に「アメリカと日本の平和を願う桜の木を植樹できてうれしいです。また皆さんが英語で話しかけてくれてうれしかった。」と話されました。3年生が「Thank you for the cherry tree. We will love and care for it always.」と記した横断幕を作りました。

当時の植樹式典に出た児童は全員卒業しておりますが、今の5・6年生の中には麻布幼稚園の園児として参加した人が何人かいるかもしれません。教職員も6年前にいた者は退職したり、異動したりして、植樹式典の様子を知っている人は少なくなりました。むしろ、その式典に参加された同窓会の方々や、当時の保護者・児童の方に知っている人も多いと思います。現在の木は、まだまだ背が低いのですが、「大きくなるものですね」「植えたときは、長く持つのかなあと思ったぐらいでしたよ」と式典に出た方が話してくれました。

この紙面ではすべては語りつくせませんが、「グルーの桜」が育って大きくなることを祈りながら、麻布小学校として未永く大切にしていきたいと思っております。